

大学評価学会通信

目次

◆ 中止となった第17回大会をめぐって	1
◆ 田中昌人記念学会賞 受賞者の挨拶	2
◆ 大学評価学会 第18回大会について	4
◆ 大学評価学会 第17回年次総会	5
◆ 理事会報告	10
◆ 年報第17号への投稿募集	11
◆ 2020年度の研究会の開催について	11

中止となった第17回大会をめぐって

岡山茂 (第17回大会実行委員長)

実行委員のみなさんをはじめ多くの方々にたいへんな苦勞をおかけして準備した大会が、コロナウィルスのために中止になってしまいました。しばらくのあいだは予期せぬかたちで自由な時間が生まれたものの、コロナウィルスの拡がり心配でついWebなどで情報を追いかけてしまい、自分の仕事もできずに終わってしまった3月でした。

私の大学では卒業式などあらゆる行事が取りやめになり、4月になると前期のあいだはすべての授業をオンラインでやることも決まりました (moodleというそのためのシステムが今年度から導入されることもなぜかコロナ騒ぎのまえに決まっていた)。今度はそのシステムに慣れ、オンラインの授業を準備するために、自宅にいながたいへん忙しい思いをすることになりました。

こうした事態は今後の大会ばかりでなく、学会のありかたさえ変えるのではないかという思いは、少しずつ明らかになりました。大会実行委員会が作成した大会の「趣旨」や、大会に招くはずだった佐藤郁哉氏の講演原稿 (今度の年報に掲載予定) を読んでもらうと、当学会のいまの立ち位置はわかると思

います。しかし今後、GAFAsのように国境を越えて拡がる「ウィルス資本」は、コロナウィルスのような「自然」の力によってさらに勢力を拡大するかもしれません。観光客のいない都市は静かさをとり戻し、空気も少しはきれいになり、海に浮かぶプラスチックゴミも減り、UBI (ユニバーサル・ベーシック・インカム) や学費無償化への道も開けるかもしれませんが、経済を再生させるための大規模な公共投資は、超富裕層をさらに豊かにするだけかもしれません。

昨年10月の徳島つるぎ町での研究会では、ある土地に集い、その土地の風土にふれ、そこでの思いがけない出会いをとおして、あらたな発見がありうるということを確認しました。ある所にみんなが集うのを避けねばならないというような要請を、私たちがみずから受け入れることになることは、そのときは思いもしませんでした。そういう意味では、つるぎ町での経験は、コロナ以前という時代の最後のできごと、あるいは「できごと」の最後であったのかもしれませんが。

今後、大会はだれのためのものなのかが問われることでしょう。それは会員のためのもの

のであると同時に、社会に開かれたものであ
らねばなりません。また会員のなかには、旅
費を自分の研究費から工面できる会員と、そ
うでない会員（学生、非常勤講師、退職した
教員）がいますが、オンラインでの学会は、
そうした違いを超えるあらたな学会をつくる
きっかけになるかもしれません。Zoomでお
こなわれる学会では、自分の発表を聴いても
らいたい人にだけ自由に公開することもでき
るし、聴きたい発表のみをピンポイントで聴
くこともできるでしょう。海外の参加者とも
つながるから、国際学会のために科研費を取
ることもなくなるし、会場の設定や「情報交
換会」のための準備もいらなくなるでしょ
う。

しかしそれでも、文学ばかりでなく数学や
コンピュータの言語もふくめて、言語はや
り「土地」に根ざしているものだと思います。
どの分野においても、地に足をつけた議
論をしないと議論は空転してしまうでしょ
う。マラルメが「文学基金」のアイデアをえ

たのは、イギリスのオックスブリッジをじつ
さいに訪ねたからにほかなりません。それぞ
れのディシプリンやそれらのあいだにひろが
る何もない空間も、じつは暗黒物質にみたさ
れた「3密」の宇宙です。それだからこそ、
少なくとも年に一回、「大会」のような機会
には、ひとと合い、議論をし、町の見物も
し、お酒を飲むことが必要となるのではないで
しょうか。

Collaborateというオンライン授業システ
ムには、「コースルーム」という24時間ひら
いている「あき教室」があります。そこは暗
くて、たいてい誰もいません。しかし学生は
かつてにそこに入りこみ、かつてに集会（勉
強会？）を開くことができます。大学のキャン
パスにはもそういう「あき教室」はありま
した。しかしいずれにしても、誰かが誰かを
誘うというアナログな仕掛けはつねに必要と
なるでしょう。コロナ以前と以後で何か変わ
るのか変わらないのか、しっかり見きわめて
いきたいと思います。

第6回 田中昌人記念学会賞 受賞者の挨拶

田中昌人記念学会賞をいただいて

蔵原清人

思いもかけず本学会の光栄ある田中昌人記
念学賞をいただいた。コロナ問題で第17回
大会が開催できないという通知を頂いた中
に、学会総会で予定していた報告がはいって
いたが、その最初に学会賞について書かれて
いた。何の気なしに読んでみると自分が受賞
したことになっているではないか。正に青天
の霹靂だった。受賞は大変な名誉であり、喜
んでお受けしたい。ただ『大学改革と大学評
価』はこれまで本学会で発表したものを中心
に関連する論考をまとめたのであるが、不十
分なものというほかはない。

それにしても選考委員会のコメントはあり
がたいものだった。特に序論と付論について

適切な評価を頂いたと感謝している。序論で
は、今日大学を考える際には現代社会につい
ての理解が重要だということを論じ、付論
は大学で学習する機会と学問の普及の意義に
ついて取り上げたことを評価して頂いたこと
は嬉しかった。

振り返ってみると個々の大学評価の課題は
取り上げているが、今にしてみると大学その
ものの意義については論究が弱いように自分
でも思う。今日の大学が果たしている役割に
ついて積極的に論じる必要があったのではない
か。政府の側ではもちろん、その政策を批
判する側でも、今日の大学が現に果たしてい
る役割の評価が消極的にすぎないのではなか
ろうか。

もちろん今日の大学の問題は多いし、改善

しなければならないことも少なくない。だが日本の社会の中で現在果たしている役割を正當に評価しなければ、清算的になってただ今の大学を改革することが喫緊だということだけになる。しかし日本の大学がその卒業生を社会の働き手として送り出していることや、新しい研究を進め学問や文化を発展させていることは正當に評価すべき点だと思う。

要するに現代の大学は様々な問題を持ちながらも、社会的に果たすべき役割を曲がりなりにも果たしてきていると思うのである。現在必要な大学評価はこうした役割を認めつつ、不十分な点を補うものを明らかにするものとしておこなわれるべきである。このこと

田中昌人記念学会賞をいただいて

金丸彰寿

この度、第6回「田中昌人記念学会賞」に選んでいただきまして、本当にありがとうございます。選考委員の皆様には感謝申し上げます。本論文では、青年期の発達要求を分析視角に据えて、1972-81年における京都府立与謝の海養護学校と京都府立加悦谷高等学校の「共同教育」実践プロセスを検討しました。また本論文は、当時の実践記録、映像記録、関係者への聞き取り調査を対象に整理・分析しました。本論文作成にご協力いただいた関係者の皆さまがいなければ、この論文を作成することはできませんでした。感謝申し上げます。

両校の「共同教育」では、青年期の発達要求に基づいて、障害児と非障害児の連帯を組織し、障害や障害者問題への理解・認識を深めようとしていたと考えられます。この実践的教訓は、障害の有無を超えた様々な多様性を承認し尊重する人間相互の共生のあり方を考える上で示唆的であり、とくに青年期の発達保障を支える教育実践の創造と関連して深

を認めることによって現在果たしている大学人の役割を評価し、今改善しなければならない点が明確になるのではないだろうか。このことを念頭に置いて本書の論考を読んで頂きたいと思う。

最後であるが本書の出版に当たって、審査委員となった重本直利、細井克彦、小山由美の各氏に深く感謝申し上げたい。審査委員の方々は多忙な中を3年にわたって論考を読み改善のための意見を出してくださった。また事務局長を務めた渡部昭男氏、年報編集員長の日永龍彦氏のご高配を頂いた。選考委員会委員の諸氏にも記して感謝の意を表したい。

めるべき教訓であると思われま

本論文は、青年期の発達保障の研究を進める大学評価学会の研究に学びながら、当時の「共同教育」実践の意義と課題を明らかにすることを目的にしました。ただし研究の限界や課題も山積していますので、今後研究を深めていく必要があると感じています。その際、受賞理由文にありました、「青年期の発達要求は自らの価値の社会における位置付けの探求という側面を含むことから、『学校と地域社会の関係性は青年期の発達に影響を与える』、『インクルーシブ教育は学校内だけでは完結しない』など、イマジネーションはさまざまに広がる」というご指摘は、今後の研究の方向性を暖かく提案していただいたと感じています。参考にさせていただきます。本論文は、現在執筆している博士論文の一部として位置づいています。今後、私は、今回の受賞をバネにして、博士論文執筆を進めながら、大学評価学会の研究蓄積に少しでも貢献しつつ、「排除から包摂に向かう」社会づくりに寄与できるように精一杯研究に邁進していきたいと思

大学評価学会第18回大会について（第一次案内）

日程：2021年3月6日（土）～7日（日）

場所：愛知工業大学自由が丘キャンパス

（〒464-0044 名古屋市千種区自由ヶ丘2丁目49-2）

交通アクセス 地下鉄名城線「自由ヶ丘駅」で下車、徒歩 1分。

概要：自由研究発表、ポスター発表、総会、シンポジウム、課題研究（予定）

※ 今後、COVID-19感染の再拡大の可能性があることから、第18回大会についてはオンラインでの開催も視野に準備を進めてまいります。今後、理事会・大会実行委員会において実施方法について検討を進め、随時学会ウェブサイトにおいて情報提供を行います。

自由研究発表（口頭発表）およびポスター発表の申し込みについて

大会期間中、会員の「自由研究発表」・「ポスターセッション」を開催します。会員の皆様にはふるってお申し込み下さい。申し込み方法の詳細は、大学評価学会年報発送時に同封の申し込み案内もしくは学会ウェブサイトでご確認ください。第18回大会情報を随時更新してまいります。なお、入会手続きをすれば発表が可能です。非会員の方で発表希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

【申し込み受付期間】 2020年10月1日（木）～11月30日（月）

従来の大会より発表申し込み受付が早くなっていますのでご注意ください。

【想定されるテーマ】 大学・学術の果たすべき役割、大学評価や法人経営のあり方、評価書の読み方・読み解き、大学評価・大学教育政策、公立大学問題、センター・附属施設の機能、教職協働の取り組み、FDや学生参画、授業づくりの実践、アクティブ・ラーニング、高大連携・高大接続の現状と課題、学生・青年の発達保障・移行支援、就活・キャリア教育、無償教育の漸進的導入、ジェンダー問題・男女共同参画、多様性と包摂など

【要旨集原稿締め切り】 2021年1月31日（日）の予定

【申込先】 第18回大会実行委員会事務局 info@unive.jp

大学評価学会 第17回年次総会

2020年3月30日～4月30日（通信による実施）

1. 第7期顧問の了解 池内 了・植田健男・碓井敏正・蔵原清人・重本直利・広渡清吾・細井克彦
朴木佳緒留・三輪定宣・山本健慈の各氏（計10名 継続）
2. 2019会計年度活動総括（案）について
〈学会年報〉 第15号の発刊（2019年9月）／第16号の編集（2020年7月刊行予定）
〈研究会等の活動〉
 - ・第57回研究会 2019年9月7日（早稲田大学）
 - 1) 岡山 茂（早稲田大）「ステファヌ・マラルメ「禁域」を読む」
 - 2) 日永龍彦（山梨大）「（話題提供）第3サイクルの認証評価における「大学人」に関する諸基準」
 - ・秋季研究集会 2019年10月19日（つるぎ町就業センター，徳島県）
 - A：地域講師企画
 - 1) 大島理仁（つるぎ町商工観光課）「世界農業遺産とまちづくり」
 - 2) 篠原俊次（地元歴史研究家）「石門心学とつるぎ町」
 - B：学会メンバー企画
 - 1) 井上千一（大阪人間科学大）「経営学のはなし」
 - 2) 松下尚史（岡山理科大）「制御工学のはなし」
 - 3) 岡山 茂（早稲田大）「仏文学のはなし」
〈課題研究の活動〉
 - ・「教職協働」 科研費（C）（代表：深野／2018-20）により、今年度は韓国および台湾の大学訪問調査を実施。現地教職員へのインタビューと研究交流を行った。
 - ・「青年期の発達保障」委員会（2016.5.発足／世話人：西垣・川口）について、MLを通じて情報交換。科研費(C)の採択（代表・西垣／2017-19）により共同研究を継続中。また第17回大会において高大接続をテーマにした議論の場を当事者である学生を中心に持つべく小池委員を中心に準備した。
 - ・なお、両課題研究とも全国大会が中止になったため、2020年度に研究会等として開催する方向で調整予定。
〈第6回 田中昌人記念学会賞〉
 - ・蔵原清人氏（工学院大名誉教授）および金丸彰寿氏（神戸松蔭女子学院大）の2名に贈呈することとした。
〈学会通信〉 年2回発行：第48号（2019年6月）、第49号（2020年1月）
〈理事会〉第Ⅶ期
 - ・第4回理事会 2019年3月3日（神戸大学）
 - ・第5回理事会 2019年9月7日（早稲田大学）
 - ・第6回理事会 2019年12月15日（愛知工業大学）
 - ・通信による理事会 第1回：2019年5月、第2回：2019年7月、第3回：2020年2月
〈会員現況〉
会員数： 162 [内訳 会員： 155 協力会員： 7（団体会員 1 を含む）]
〈その他〉
 - ・教育関連学会連絡協議会第7回総会（2019.3.16学習院大学）へ参加
3. 2019会計年度決算（案）および監査報告 【6ページ掲載】
4. 2020会計年度活動方針（案）について
5. 2020会計年度予算（案）について 【8、9ページ掲載】
6. 第18回全国大会について 日時：2021年3月6日（土）・7日（日） 会場：愛知工業大学自由が丘キャンパス
7. その他（報告事項）

総会参考資料

2019年度決算案（2019年2月21日～2020年2月29日）

【一般会計】

単位：円

	2019年度予算	2019年度決算	内容
前期繰越金	862,061	862,061	
会 費	810,000	701,800	過年度会費を含む
2019年度会費	690,000		
過年度会費	120,000		
年報販売売上	100,000	191,520	第13号、第14号
雑収入	1,000	0	
<収入合計>	1,773,061	1,755,381	
全国大会（第16回）	100,000	81,316	
開催補助（特別会計へ）	10,000	10,000	16回大会
予稿集印刷	65,000	61,236	16回大会
大会案内印刷・送付費	25,000	10,080	17回の案内はがき
年 報（第15号）	425,000	279,371	
編集・印刷費	400,000	259,200	
送付費（封筒等含む）	25,000	20,171	
学会通信（年2回）	120,000	89,236	
印刷費	70,000	52,560	
送付費（封筒等含む）	50,000	36,676	
研究例会（年2回）	40,000	0	
会場費	35,000	0	
湯茶等	5,000	0	
理事会会議費	130,000	80,488	交通費、茶菓代
事務費・事務用品費	60,000	10,883	
支払手数料	22,000	17,515	郵便振替手数料他
委託費	80,000	20,000	版下作成ほか委託
会費		10,000	教育関連学会連絡協議会
予備費	100,000	18,201	関連企画の支出
<支出合計>	1,087,000	607,010	
<次期繰越金>	686,061	1,148,371	

注)

1. 全国大会・総会の開催日の関係で、2019年2月21日からの予算としている。
2. 事務費・事務用品費には、通信費（2,796円）を含む。

【全国大会 特別会計】

単位：円

	2019年度予算	2019年度決算
前期大会繰越金	195,838	195,838
全国大会（第16回大会）	100,000	106,120
開催補助（一般会計から）	10,000	10,000
参加費	90,000	88,000
雑収入	0	8,120
<収入合計>	295,838	301,958
会場費	30,000	24,179
講師等謝金・旅費	0	0
アルバイト代	0	0
諸雑費	10,000	6,502
予備費	20,000	0
<支出合計>	60,000	30,681
<次期大会・繰越金>	235,838	271,277

注) 雑収入の内訳は、3月2日に開催した情報交換会の残金である。

【シリーズ本 特別会計】

単位：円

	2019年度予算	2019年度決算
前期繰越金	△ 40,071	△ 40,071
シリーズ本売り上げ	210,000	164,500
第8号：学会売上	45,000	4,500
同：晃陽書房還元	120,000	160,000
第9号：学会売上	45,000	0
同：晃陽書房還元	0	0
雑収入	10,000	6,000
<収入合計>	179,929	170,500
シリーズ本・継続企画	310,000	0
編集・印刷費	300,000	0
送料	10,000	0
予備費	10,000	0
<支出合計>	320,000	0
<次期繰越金>	△ 140,071	130,429

注) 雑収入は、第8号以外の販売である。

【貸借対照表（2020年2月29日現在）】

単位：円

資産		負債	
現金	12,516	次期繰越金	1,550,077
郵便振替口座	1,537,561		
合計	1,550,077	合計	1,550,077

監査報告書



2020年3月2日

監査報告書

大学評価学会 御中

2019年度（2019年2月21日～2020年2月29日）大学評価学会の決算を本日監査いたしました。帳簿、証憑はすべて正確に処理されていることを認めます。
なお、引き続き、学会費の徴収に格段の努力をいただきますようお願いいたします。

以上

会計監査人 角岡賢一 
会計監査人 塚田亮太 

2020年度予算案（2020年3月1日～2021年2月28日）

【一般会計】

単位：円

	2020年度予算	2019年度決算	2019年度予算
前期繰越金	1,148,371	862,061	862,061
会 費	705,000	701,800	810,000
2020年度会費	600,000		690,000
過年度会費	105,000		120,000
年報販売売上	100,000	191,520	100,000
雑収入	1,000	0	1,000
<収入合計>	1,954,371	1,755,381	1,773,061
全国大会（第17回大会）	112,000	81,316	100,000
開催補助（特別会計へ）	0	10,000	10,000
予稿集印刷	100,000	61,236	65,000
大会案内印刷・送付費(18大会)	12,000	10,080	25,000
年 報（第16号）	425,000	279,371	425,000
編集・印刷費	400,000	259,200	400,000
送付費（封筒等含む）	25,000	20,171	25,000
学会通信（年2回）	120,000	89,236	120,000
印刷費	70,000	52,560	70,000
送付費（封筒等含む）	50,000	36,676	50,000
研究例会（年2回）	80,000	0	40,000
会場費他	75,000	0	35,000
湯茶等	5,000	0	5,000
理事会会議費	130,000	80,488	130,000
事務費・事務用品費	60,000	10,883	60,000
支払手数料	22,000	17,515	22,000
委託費	50,000	20,000	80,000
会費（教育関連学会連絡協議会）	10,000	10,000	10,000
予備費	100,000	18,201	100,000
<支出合計>	1,109,000	607,010	1,087,000
<次期繰越金>	845,371	1,148,371	686,061

注)

1. 2019年度会費は、@6,000×80人、@3,000×40人で算出した。過年度会費は、@6,000×10人、@3,000×15人で算出した。2020年3月現在の会員数は162人（うち協力会員は7人）である。
2. 第17回大会の予稿集は、すべての会員に郵送する。
3. 事務費・事務用品費には、学会賞記念品代、学会ホームページのサーバー使用料などを含む。

【全国大会 特別会計】

単位：円

	2020年度予算	2019年度決算	2019年度予算
前期大会繰越金	271,277	195,838	195,838
全国大会（第17回大会）	0	106,120	100,000
開催補助(一般会計から)	0	10,000	10,000
参加費	0	88,000	90,000
雑収入	0	8,120	0
<収入合計>	271,277	301,958	295,838
会場費	0	24,179	30,000
講師等謝金・旅費	0	0	0
アルバイト代	0	0	0
諸雑費	0	6,502	10,000
予備費	0	0	20,000
<支出合計>	0	30,681	60,000
<次期大会・繰越金>	271,277	271,277	235,838

注) 第17回全国大会（2020年3月7日、8日に桜美林大学で開催予定）は中止のため、特別会計の収支は発生しない。

【シリーズ本 特別会計】

単位：円

	2020年度予算	2019年度決算	2019年度予算
前期繰越金	130,429△	40,071△	40,071
シリーズ本売り上げ	52,500	164,500	210,000
第8号：学会売上	7,500	4,500	45,000
同：晃陽書房還元	0	160,000	120,000
第9号：学会売上	45,000		45,000
同：晃陽書房還元	0		0
雑収入	10,000	6,000	10,000
<収入合計>	192,929	170,500	179,929
シリーズ本・継続企画	310,000	0	310,000
編集・印刷費	300,000	0	300,000
送料	10,000	0	10,000
予備費	10,000	0	10,000
<支出合計>	320,000	0	320,000
<次期繰越金>	△ 127,071	130,429△	140,071

注)

1. 第8号の学会売上は、5部（頒価@1,500）を見込んだ。
2. 第9号の学会売上は、30部（頒価@1,500）を見込んだ。
3. 雑収入は、第7号までの販売を見込んだ。

理事会報告

大学評価学会第Ⅶ期第3回通信理事会

日時：2020年2月21日（金）～25日（火）

出席：岡山・日永・井上・西垣・光本・安東・石渡・片山・川口・菊池・小池・小山・
深野・藤原・松下・水谷・村上・望月・米津・渡部＝20名

【審議事項】

1. 全国大会の開催の是非に関する決定手続きについて

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、全国大会の開催の是非に関する最終的な決定を、実行委員会の意見を踏まえて正副代表理事の合議で決するとの提案が了承された。

大学評価学会第Ⅶ期第4回通信理事会

日時：2020年3月14日（土）～21日（土）

出席：岡山・日永・井上・西垣・光本・安東・石渡・片山・菊池・小池・小山・深野・
松下・水谷・村上・米津・渡部＝17名

【報告事項】

1. 活動報告について（2019年12-2020年2月）
2. 学会年報について（16号）
3. シリーズ本9巻について

【審議事項】

1. 会員の異動について
 - ・ 事務局の提案通り会員の異動が了承された。
2. 学会賞審査結果について
 - ・ 提案通り了承された。
3. 第17回全国大会の記録・学会通信の発行について
 - ・ 提案通り了承された。
4. 第17回会員総会の議案および運営について
 - ・ 提案通り了承された。
5. 第18回全国大会（愛知工業大学 2021年3月予定）について
 - ・ 提案通り了承された。
6. 渡部理事の事務局長退任に伴う対応について
 - ・ 提案通り了承された。

大学評価学会年報『現代社会と大学評価』第17号への投稿募集

学会年報『現代社会と大学評価』第17号（2021年7月刊行予定）に掲載される学術論文、資料、研究ノート（以上、査読審査対象）、実践報告、レビュー、動向（以上、閲読審査対象）への投稿を募集しています。2020年7月末日までに学会ウェブサイトに掲載されている「年報『現代社会と大学評価』執筆要領」をご確認の上、ふるって投稿をお願いします。投稿ご希望の会員は、上記執筆要領の「11.原稿送付先・問い合わせ先」宛、郵送・Fax・電子メールのいずれかの方法で申し込みをお願いします。書式は問いません。

なお、査読審査対象となる原稿の提出期日は9月末日とします。また、その他の原稿については、11月末日までに提出されたものを第17号に掲載対象とします。その後、所定の審査を行ない、2021年2月末日までには掲載の可否をお知らせします。

（文責・日永龍彦:年報編集委員長）

2020年度の研究会の開催について

第16回総会でご承認いただいた今年度の活動方針において、2020年度も研究会を2回程度、理事会開催時に実施することにしていきます（研究集会にする可能性もあり）。第17回大会が中止になったことから、予定されていたシンポジウムや課題研究をベースにした研究会や研究集会を実施できればという案も検討されていました。しかし、Covid-19感染拡大の今後は予測しづらく、イベントの開催および長距離の移動が制限される状況も、いつまで継続するのかわかりません。本来でしたら8月末か9月頭に対面での理事会を開催し、それと同時に研究会を開催するはずでした。学会運営上、理事会はこの時期に、何らかの形で開催しないといけませんので、対面が不可能であればオンラインで開催することになります。研究会も同様にオンラインで開催する可能性を、目下検討しています。決まり次第、学会のwebサイトに掲載します。会員の皆様には、学会webサイトをこまめに閲覧していただきますようお願いいたします。ご不便をおかけしますが、よろしく申し上げます。



学会年会費の請求について

2020年度（2020年3月1日～2021年2月28日）の学会年会費の請求書を同封させていただいております。過年度分が未納の方につきましては、2020年度分とあわせてお支払いいただきますようお願いいたします。

ご不明な点は、事務局・細川 (hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp) までお願いいたします。

【大学評価学会の日誌】

2020年 2月21日（火）～25日（金）第Ⅶ期第3回通信理事会
3月2日（月） 会計監査（龍谷大学）
3月7日（土） 正副代表理事・事務局会議（テレビ会議）
3月14日（土）～21日（土） 第Ⅶ期第4回通信理事会
（第6回田中昌人記念学会賞の授与日は、3月21日付とする）
3月30日（月）～4月30日（木） 第17回年次総会（通信による開催）

<予定>

2021年 3月6日（土）・7日（日）第18回全国大会（愛知工業大学自由が丘キャンパス）
3月6日（土） 第18回会員総会（ ” ）

【事務局のつぶやき】

この「学会通信」はちょうど50号目となるので、本「通信」は一つの節目と言えるかもしれません。2004年3月28日に開催した設立大会以降の「通信」は、学会のウェブサイトでご覧いただけます（<http://www.unive.jp/>）。

この設立大会までに何か発行したような記憶があるので、パソコンのファイルを探してみると「大学評価学会設立準備事務局ニュース」が見つかりました。そして「学会通信」第1号にも2月10日、3月9日、26日に「ニュース」を発行したことが記載されていました。

16年前の今ごろを振り返ってみると、田中昌人・代表（当時）や重本直利・事務局長（同）と相談しながら関係機関への訪問の準備をしていたような記憶があります。この訪問は1日に4カ所（文部科学省や認証評価機関など）という強行軍でした。自宅に帰り着いたのは、日付が変わる頃だったように記憶しています。

わたしたちは新型コロナウイルスの感染が拡大し在宅勤務で、講義はすべて遠隔で行っている状況におかれているのですが、学会発足時の熱気が懐かしく思い出されます。それは、大学の社会的な意義が改めて問われているからなのかもしれないと思う次第です。

編集・発行：大学評価学会

〈学会事務局〉 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学
大学教育研究センター 西垣順子研究室
Tel/Fax:06-6605-2128（西垣）

e-mail:nishigaki@rdhe.osaka-cu.ac.jp

〈事務連絡先〉 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学
経営学部 細川孝研究室
Tel/Fax : 075(645)8634（細川）

e-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

URL : <http://www.unive.jp/>

〈会費納入先〉 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会
